

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400381		
法人名	(株)メディカルオフィス・創健		
事業所名	グループホームひなた園 1F 木ユニット		
所在地	北海道函館市湯川2丁目16番1号		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191400381-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は8畳分の個室と、ユニット型のフロア、対面キッチンを設置し、空間にゆとりがあります。サポートドクターと24時間体制で連携し、適切な医療連携につながるよう取り組んでいます。入院した場合は、病院の医療連携室と連携して、速やかな退院支援に繋がっています。昨年は、夏祭りやピクニックなど、全員参加型のイベントも企画運営して参りました。ご家族へ、毎月、写真とお手紙を送り、運営の可視化および近況報告に努めています。運営推進会議では、毎月のスライドショーが人気なので、今後も継続していきます。メンター制導入により、ストレスない新入社員の受け入れ体制が実現しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「函館」の由来をひもとくと、室町時代の享徳3年(1454年)、津軽の豪族が宇須岸(ウスケシ:アイヌ語で湾の端の意)と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになる。明治2年(1869年)、蝦夷が北海道となり箱館も函館と改められた。事業所は函館駅前より東方向に車で20分、市電では終点「湯の川」電停で降りて徒歩5分程、住宅街の中にある。この事業所の優れている点は、事業所理念である「穏やかに ゆったりと 愉しく 心がふれあう空間」を実践するためのユニット型建築とそれを有効に活用していかにより利用者のために支援できるように日々取り組んでいる姿勢にある。ユニット型建築は真真中に広く廊下、居間、食堂、キッチン等の共用空間を設け、両側に居室を配置している。事務用スペースや職員休憩室も設けられている。2階には「多目的ホール」があり、運営推進会議や職員の研修等に幅広く利用されている。利用者・家族に対しては感染症が続く期間中であっても家族との面会を絶やさないうち又馴染みの関係を切らさないよう配慮し、継続している。医師と協力しながら看取りにも取り組んでいる。行事や食事の面でも職員の意見を取り入れながら、常に利用者・家族の為に管理者、職員共々支え合いながら明るく元気に過ごせるよう努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員には、理念を学ぶオリエンテーションを実施しています。その後も、必要に応じて、受講できる体制を整えています。また、毎月実施している社内研修では、全体に向けて理念の周知を図っています。	現在の理念は設立以来継続している。理念はスタッフルーム等にも掲示している。職員会議でも周知して職員にも浸透しており、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は、事業所主催の夏祭りを町内会協力の下、行いました。家族をご招待し、楽しい時間を共有できました。個別には、好きなパン屋さんに月2回ほど通い続ける利用者様もいます。	町内会に入っており、昨年の夏祭りは事業所駐車場で開催している。テントなどを町内会に依頼し、町内会長も手伝いに来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や専門職から依頼があった場合、管理者は「認知症理解基礎講座」の講師などを、快くお引き受けさせていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者からご意見いただいた場合は、お手紙を通じて、そのフィードバックをご家族へ行っておりました。必要に応じて、アンケート調査を実施し、透明性を確保しています。	定期的に2か月に一度開催している。開催場所は事業所2階の「多目的ホール」を利用している。家族や地域包括支援センターの参加も得られている。開催議事録は「ご家族へ」と題して報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上不明な点が生じた場合は、自己判断せず、都度、指導監査課に確認しながら、運営の指標とさせていただいております。	医療等管理に関して市・指導監査課と打合せをしたり福祉課の助言を得るなど市担当者と連絡を取り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の『リスクマネジメント委員会』『ケアマネジメント委員会』を活用し、身体拘束の定義や運用の実際について、年に2回、研修会を開催する体制を整えています。	年に2回委員会を開催し、「身体拘束適正化にかかわる研修会」報告書を作成し、個々の職員により研修後のケアの実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の『リスクマネジメント委員会』において、不適切なケアにかかわる勉強会を開催しております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は「成年後見制度」について自己学習しております。制度利用の必要性がある御家族には、予め説明することが可能です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、毎回、重要事項説明書の読み合わせを行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話、LINE、SMSなど、ご家族の状況に合わせた手段で意向確認を行っておりました。同様に意向反映の報告もさせていただいております。	家族からは面会時や電話など又、運営推進会議の席上で意見を聞く機会を設け運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	キャリアパス体制を敷くことで、介護現場と管理者が同じ方向性で仕事ができる環境を作っています。	管理者は日常的に職員の意見を聞いている。月に1度のユニット会議では事業主、管理者、薬剤師が同席している。年に1度管理者との個別面談があり、職員の意見を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス体制の構築、管理者との個別面談、全体会議での研修会、毎月のスタッフ会議など、コミュニケーションの機会を複数設けており、これらの活動を通じて、働き甲斐ある職場環境の構築に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に、6か月間のオリエンテーション期間を設けています。キャリアパス体制を構築し、キャリア1級のスタッフの下で、現場に必要な判断ができる体制で運営しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の活動への参加を通じて、協会の方針に沿ったサービスの質の向上に取り組んでおります。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やケアプラン更新時に、生活にかかわる意向を本人に確認しています。入居後も本人の意向に関する情報は、都度スタッフ間で共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、事前に家族への聞き取りを行い、サービス内容に家族の意向が反映されるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、グループホームがどのようなサービスであるか説明し、現在の生活環境と比較検討できるよう案内しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活場面において、主体的に参加していただけるよう、適宜声掛けをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、地域イベントへの参加や外食、病院受診など、支援が必要とされる場面で、できる範囲の事柄への関与をお願いしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	予約制ですが、自由に面会案内できています。終末期にいる利用者様や希望されたご家族には、時間を気にせず面会できるよう個別対応しています。馴染みの場所への外出支援や、利用者様の希望に沿って自宅へ帰宅するなどご案内できています。	感染症があつた中でも馴染みの関係を切らさないよう工夫しながら面会を続けている。家族の申し出で月に2回外泊をする利用者がある。訪問理・美容も受け入れており、今までの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に自由に生活していただくようご案内しておりますが、日中は、概ね、フロアにて過ごされています。また、利用者様のその日の体調に応じて可能な限り生活場面に参画できるようご案内しています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、支援が必要とされるご家庭については、適宜、相談支援に応じております。退所後も、時折、近況をやり取りさせていただいているご家族もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面での何気ない会話や、その時々の表情などから、本人が現在の生活をどのように感じてもらえるか、把握するよう心がけております。	日々の会話の中から特に印象に残った事を「生活支援ノート」に書き留めている。利用者には担当制を設けており、思いや意向を汲んで支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にいただいたフェイスシートやアセスメントの情報だけでなく、本人や家族からの聞き取り情報を重視して支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的に、その日の本人の意志を尊重して生活していただいております。毎日の申し送りにて、変化や出来事を細目に共有し、支援内容を柔軟に変えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングならびにサービス計画は、本人や家族へ意見を伺う他、現場の介護職員の意見を下地としながら作成しており、介護現場からも理解が得られるよう計画しています。	介護計画は入所時には1か月、その後3か月ごとに立てている。担当制を敷いており3か月ごとにモニタリングして介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に作成しています。ケアプランはベースとしてありますが、本人のニーズに柔軟に対応できるよう、毎日の申し送り内容を活かして、プラン以外の介入も日々、行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会希望に応えるケースが多いですが、中には月2回外泊している利用者様や、馴染みのパン屋さんに通う利用者様などがいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブによるお花見や、食べたいと希望されたモノはテイクアウトで昼食会を実施するなど、少しでも楽しみある生活になるよう地域資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診が継続するよう配慮しています。細かい連携が必要な場面では、事業所サポートドクターと連携し、適切な医療選択に繋がっています。	医師は原則月に2回往診しているが、それ以外にも来所する機会には支援している。訪問歯科や訪問爪切りなども受け入れている。外来診療では職員が付き添う等、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設サポートドクターによる24時間の緊急時相談窓口があります。診療所と連携し、定期的な訪問看護に繋いでいます。訪問歯科、訪問爪切りなど、必要に応じて地域社会資源と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急性高い場面では、受診前に事前に病院に連絡しています。入院期間をなるべく短くするという基本方針の下で、退院案内あった際は、速やかな退院支援に繋がるよう受け入れ態勢を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針、ならびに終末期指針を作成し、個別の状況に応じて説明を行っております。また、運営推進会議を通じて家族と一緒に終末期介護を学ぶ機会を作っております。適宜、カンファレンスを開催し、支援方針を見直す機会を作っています。	看取りは経験している。今年度は3人の方の看取りをしている。入居時に指針(「ACPカンファレンス記録」)を説明し同意を得ている。終末期においては、再度、家族と話し合い最適な支援が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にリスクマネジメント委員会を設け、緊急時対応にかかわる勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自衛消防訓練を実施しています。平成31年からは、災害を想定した実践的な模擬訓練の実施を計画しています。	避難訓練、災害訓練を年2回実施している。食料や水などの災害用備蓄は5日分を確保している。	寒冷時の停電に備えて暖房器具の対策を考えて置く事を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特別に配慮が必要な利用者様については、ご家族相談の上、呼称や言葉遣いを定めております。	利用者の呼びかけは、姓にさん付けしている。一人だけ本人・ご家族の同意を得て「ちゃん」付けで呼んでいる。トイレ誘導の時も外で待つなど、プライバシーを損ねないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前の意思確認はもとより、日常会話の中から本人の意志を汲み取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせた生活の提案や、直近の生活ぶりを踏まえた関わりなど、本人の意思表示以外にも配慮すべき点を日頃から話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、本人の意志確認を行いながら進めています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みや口腔状態に応じて、食事形態を選択できるよう、柔軟に対応しています。刻み食やミキサー食にも対応しています。加えて、職員は利用者と共に、家事を行っています。	誕生会のおやつ、季節に合わせて行事食を提供するなど、普段の食事以外にも楽しく食事が出来るよう支援している。利用者も食事の簡単な準備や片付けに参加し、職員と共に食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回声がけさせていただいておりますが、摂取は本人の意思決定を尊重し、無理なく日々を過ごせることを重要視しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践しています。必要な場面で歯科受診(訪問歯科)に繋がっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は原則として、トイレ内で排泄できるよう、一人ひとりの状態に応じた介助を行っております。また、オムツにならないよう、必要な方には定期的な確認を行わせていただいております。	自立している利用者は半数ほどいる。夜間ポータブルトイレの利用者は若干名で排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活に密着して体を動かしていただく機会を作るように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	速やかに清潔が必要な場面では、臨時に入浴機会を設けています。その他、特定の日付や時間帯に限らず入浴の機会が得られるよう、柔軟に対応しています。	風呂は毎日湯を張っている。週2回入浴出来るようにしている。入浴を強制しない事に心がけており、入浴を拒む場合には別の日に変えるなど、健康にも気遣いながら楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には個別に昼寝のご案内を行います。リビングのソファで過ごす、簡単な夜食をつまんでいただくなど、利用者様の意向に沿った支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本方針として、減薬や休薬を試みしています。また、そのような方向性になるよう医療連携を図っております。有害事象の場合、速やかな服薬休止につながるよう服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書家の人は絵本好きで、美術好きの人は塗り絵好きなど、その人の個性を活かした過ごし方を、一緒に考えながら暮らしています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良いときは近所を散歩しています。希望に応じて、馴染みのパン屋さんやイオンに通う人もいます。家族面会の際は、外食や自宅での食事をご提案し、ご協力いただいています。	昨年夏には、事業所の駐車場で夏祭りを家族と共に参加し楽しんでいる。車の少ない通りを散歩したり、玄関先まで誘導し日光浴を楽しんだりしている。馴染みのパン屋に定期的に通う利用者もあり、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所として個人の金銭管理を行いません。代わりにそれぞれのご家庭の事情に応じて、自由に使えるお金を定めています。その範囲内において、買い物を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方は、お返事を書いたり、個人で携帯電話を持ち込んでいる方もおります。利用者や家族の意向に沿って柔軟に対応しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を広く取り入れた明るい生活空間になっています。観葉植物を配置して、空間に温かみを演出しています。ソファは、安心して休息していただけるよう頭を乗せることができるものを用意しました。ユニット型の建築空間を採用することでゆったりとした雰囲気を作り出しています。	ユニット型建築は真ん中に広く共用空間(廊下、居間、食堂、キッチン等)を設け、両側に居室を配置している。居間には季節の行事の飾りなどが飾られており、広々とした中で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に沿って全員がリビングで過ごせます。また、状況に合わせて、備品の配置換えし、視線を遮るなど、居場所づくりに工夫を重ねております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅にある使い慣れたものでお過ごしいただくよう、ご案内しています。過去の刺繍作品を飾る、テレビや仏壇を持ち込まれる、など思い思いの過ごし方ができるよう配慮しております。	居室はベッドなど本人の好みの物が持ち込まれている。観葉植物が好きな方はたくさんの鉢を持ち込んでいる。家族の写真等を飾ったり、一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面キッチンを採用することで、複数人で料理を作れるよう配慮しています。また、ユニット型建築を採用することで、広々とリビングを使うことができます。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400381		
法人名	(株)メディカルオフィス・創健		
事業所名	グループホームひなた園 2F 花ユニット		
所在地	北海道函館市湯川2丁目16番1号		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400381-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は8畳分の個室と、ユニット型のフロア、対面キッチンを設置し、空間にゆとりがあります。サポートドクターと24時間体制で連携し、適切な医療連携につながるよう取り組んでいます。入院した場合は、病院の医療連携室と連携して、速やかな退院支援に繋がっています。去年は、夏祭りやピクニックなど、全員参加型のイベントも企画運営して参りました。ご家族へ、毎月、写真とお手紙を送り、運営の可視化および近況報告に努めています。運営推進会議では、毎月のスライドショーが人気なので、今後も継続していきます。メンター制導入により、ストレスない新入社員の受け入れ体制が実現しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員には、理念を学ぶオリエンテーションを実施しています。その後も、必要に応じて、受講できる体制を整えています。また、毎月実施している社内研修では、全体に向けて理念の周知を図っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は、事業所主催の夏祭りを町内会協力の下、行いました。家族をご招待し、楽しい時間を共有できました。個別には、好きなパン屋さんに月2回ほど通い続ける利用者様もいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や専門職から依頼があった場合、管理者は「認知症理解基礎講座」の講師などを、快くお引き受けさせていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者からご意見いただいた場合は、お手紙を通じて、そのフィードバックをご家族へ行っております。必要に応じて、アンケート調査を実施し、透明性を確保しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上不明な点が生じた場合は、自己判断せず、都度、指導監査課に確認しながら、運営の指標とさせていただいております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の『リスクマネジメント委員会』『ケアマネジメント委員会』を活用し、身体拘束の定義や運用の実際について、年に2回、研修会を開催する体制を整えています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の『リスクマネジメント委員会』において、不適切なケアにかかわる勉強会を開催しております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は「成年後見制度」について自己学習しております。制度利用の必要性がある御家族には、予め説明することが可能です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、毎回、重要事項説明書の読み合わせを行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話、LINE、SMSなど、ご家族の状況に合わせた手段で意向確認を行っております。同様に意向反映の報告もさせていただいております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	キャリアパス体制を敷くことで、介護現場と管理者が同じ方向性で仕事ができる環境を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス体制の構築、管理者との個別面談、全体会議での研修会、毎月のスタッフ会議など、コミュニケーションの機会を複数設けており、これらの活動を通じて、働き甲斐ある職場環境の構築に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に、6か月間のオリエンテーション期間を設けています。キャリアパス体制を構築し、キャリア1級のスタッフの下で、現場に必要な判断ができる体制で運営しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の活動への参加を通じて、協会の方針に沿ったサービスの質の向上に取り組んでおります。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やケアプラン更新時に、生活にかかわる意向を本人に確認しています。入居後も本人の意向に関する情報は、都度スタッフ間で共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、事前に家族への聞き取りを行い、サービス内容に家族の意向が反映されるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、グループホームがどのようなサービスであるか説明し、現在の生活環境と比較検討できるよう案内しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活場面において、主体的に参加していただけるよう、適宜声掛けをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、地域イベントへの参加や外食、病院受診など、支援が必要とされる場面で、できる範囲の事柄への関与をお願いしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	予約制ですが、自由に面会案内できています。終末期にいる利用者様や希望されたご家族には、時間を気にせず面会できるよう個別対応しています。馴染みの場所への外出支援や、利用者様の希望に沿って自宅へ帰宅するなどご案内できています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に自由に生活していただくようご案内しておりますが、日中は、概ね、フロアにて過ごされています。また、利用者様のその日の体調に応じて可能な限り生活場面に参画できるようご案内しています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、支援が必要とされるご家庭については、適宜、相談支援に応じております。退所後も、時折、近況をやり取りさせていただいているご家族もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面での何気ない会話や、その時々々の表情などから、本人が現在の生活をどのように感じておられるか、把握するよう心がけております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にいただいたフェイスシートやアセスメントの情報だけでなく、本人や家族からの聞き取り情報を重視して支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的に、その日の本人の意志を尊重して生活していただいております。毎日の申し送りにて、変化や出来事を細目に共有し、支援内容を柔軟に変えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングならびにサービス計画は、本人や家族へ意見を伺う他、現場の介護職員の意見を下地としながら作成しており、介護現場からも理解が得られるよう計画しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に作成しています。ケアプランはベースとしてありますが、本人のニーズに柔軟に対応できるよう、毎日の申し送り内容を活かして、プラン以外の介入も日々、行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会希望に応えるケースが多いですが、中には月2回外泊している利用者様や、馴染みのパン屋さんに通う利用者様などがいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブによるお花見や、食べたいと希望されたモノはテイクアウトで昼食会を実施するなど、少しでも楽しみある生活になるよう地域資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診が継続するよう配慮しています。細かい連携が必要な場面では、事業所サポートドクターと連携し、適切な医療選択に繋がっています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設サポートドクターによる24時間の緊急時相談窓口があります。診療所と連携し、定期的な訪問看護に繋いでいます。訪問歯科、訪問爪切りなど、必要に応じて地域社会資源と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急性高い場面では、受診前に事前に病院に連絡しています。入院期間をなるべく短くするという基本方針の下で、退院案内あった際は、速やかな退院支援に繋がるよう受け入れ態勢を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針、ならびに終末期指針を作成し、個別の状況に応じて説明を行っております。また、運営推進会議を通じて家族と一緒に終末期介護を学ぶ機会を作っております。適宜、カンファレンスを開催し、支援方針を見直す機会を作っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にリスクマネジメント委員会を設け、緊急時対応にかかわる勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自衛消防訓練を実施しています。平成31年からは、災害を想定した実践的な模擬訓練の実施を計画しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特別に配慮が必要な利用者様については、ご家族相談の上、呼称や言葉遣いを定めております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前の意思確認はもとより、日常会話の中から本人の意志を汲み取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせた生活の提案や、直近の生活ぶりを踏まえた関わりなど、本人の意思表示以外にも配慮すべき点を日頃から話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、本人の意志確認を行いながら進めています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みや口腔状態に応じて、食事形態を選択できるよう、柔軟に対応しています。刻み食やミキサー食にも対応しています。加えて、職員は利用者と共に、家事を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回声がけさせていただいておりますが、摂取は本人の意思決定を尊重し、無理なく日々を過ごせることを重要視しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践しています。必要な場面で歯科受診(訪問歯科)に繋がっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は原則として、トイレ内で排泄できるよう、一人ひとりの状態に応じた介助を行っております。また、オムツにならないよう、必要な方には定期的な確認を行わせていただいております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活に密着して体を動かしていただく機会を作るように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	速やかに清潔が必要な場面では、臨時に入浴機会を設けています。その他、特定の日付や時間帯に限らず入浴の機会が得られるよう、柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には個別に昼寝のご案内を行います。リビングのソファで過ごす、簡単な夜食をつまんでいただくなど、利用者様の意向に沿った支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本方針として、減薬や休薬を試みしています。また、そのような方向性になるよう医療連携を図っております。有害事象の場合、速やかな服薬休止につながるよう服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書家の人は絵本好きで、美術好きの人は塗り絵好きなど、その人の個性を活かした過ごし方を、一緒に考えながら暮らしています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良いときは近所を散歩しています。希望に応じて、馴染みのパン屋さんやイオンに通う人もいます。家族面会の際は、外食や自宅での食事をご提案し、ご協力いただいています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所として個人の金銭管理を行いません。代わりにそれぞれのご家庭の事情に応じて、自由に使えるお金を定めています。その範囲内において、買い物を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方は、お返事を書いたり、個人で携帯電話を持ち込んでいる方もおります。利用者や家族の意向に沿って柔軟に対応しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を広く取り入れた明るい生活空間になっています。観葉植物を配置して、空間に温かみを演出しています。ソファは、安心して休息していただけるよう頭を乗せることができるものを用意しました。ユニット型の建築空間を採用することでゆったりとした雰囲気を作り出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に沿って全員がリビングで過ごせます。また、状況に合わせて、備品の配置換えし、視線を遮るなど、居場所づくりに工夫を重ねております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅にある使い慣れたものでお過ごしいただくよう、ご案内しています。過去の刺繍作品を飾る、テレビや仏壇を持ち込まれる、など思い思いの過ごし方ができるよう配慮しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面キッチンを採用することで、複数人で料理を作れるよう配慮しています。また、ユニット型建築を採用することで、広々とリビングを使うことができます。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホームひなた園

作成日：令和 6年 3月 26日

市町村受理日：令和 6年 3月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	寒冷時の停電に備えて暖房器具の対策を考えて置く事を期待したい。	暖房器具が一時的に使用不能の状態におかれた場合でも、支障なく業務を継続できる体制を整える。	ポータブル暖房器具(灯油ストーブ)を購入し、災害訓練を通して、必要調達個数を割り出し、備蓄する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。